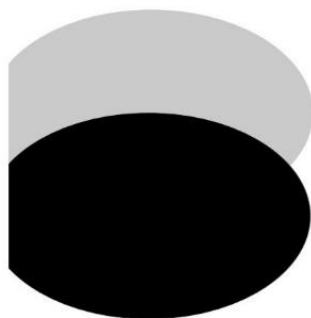


20210731

絵本学会 NEWS No.70

発行：絵本学会
発行日：2021年7月31日
編集：絵本学会広報委員会
絵本学会事務局：〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル9F
(株) 毎日学術フォーラム内
電話：03-6267-4550
Mail：maf-ehongakkai@mynavi.jp
HP：http://www.ehongakkai.com



絵本学会

会長あいさつ
第23回・第24回合同絵本学会大会（5月30日）開催報告
第24回絵本学会定期総会議事録
第4回日本絵本研究賞について
研究委員会からのお知らせ
紀要編集委員会からのお知らせ
紀要編集委員会規程一部改正
第5回日本絵本研究賞・日本絵本研究賞特別賞
絵本学会理事会報告
事務局移転にあたって
新入会員紹介

■会長あいさつ■

絵本学会 会長 藤本朝巳

会長に就任しました藤本朝巳です。これより3年間、理事に就任して下さった方々と共に、絵本学会の維持・発展のために励んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

本来ならここで、初心表明などをていねいにすべきですが、今も新型コロナウイルスの感染はいつ終息するかわからない状況、理事一同、大あらしの大海原に出航するような思いであります。行方は確かとはいえませんが、近い将来、安全な航海ができますことを祈って進めて参ります。

現在、学会はいずれも状況は同じで、理事になった方々は本務校での重責に押し潰されそうな思いであり、また多忙さに追われている毎日です。オンライン授業で、先生方は通常の何倍もの仕事を抱えておいでです。会議をするにしてもリモートでの話し合い、そのための準備や資料の用意をしなければなりません。対面授業では短時間でできたことが、今は数倍の時間と手間をかけてやっていかねばなりません。加えて、学会業務を担うということはまさに至難の業と言わざるをえません。特に事務局を預かる理事には大変な仕事量や気苦労をおかけすることになります。

そのため今回、事務局業務を外部委託することになりました。といいましても、事務局の仕事を全部丸投げして委託会社に任せるというのではなく、たとえば、会員名簿の管理（入退会を含む）、会費の納入や必要な支払いのチェック、各委員会へのサポート、さらに大会時の支援などは、これまで通り責任を持って果たしていく所存です。現在、日本でも多くの学会が、すでに業務の外部委託をしています。

昨年以來、さまざまな経験上、理事会は毎回集まらなくてもできると考えており、その交通費を節減し、これまで事務局業務に使用していた費用の一部を外部委託費用に充てるという予算組みをいたします。

さて、新理事会が最初に行うことは「日本学術会議協力学術研究団

体」に登録申請をすることです。長年の願いであった登録申請がやっとできることになりました。本件申請に当たり、準備の段階から会員並びに関係各位からご支援とご協力を得ましたことに感謝申し上げます。このニュースが皆さまに届くころには申請が終了しているはずですが、ただし厳正な審査が行われるそうですので、返事をもらうのは3カ月ほど先と聞いています。日本学術会議から「協力学術研究団体」の称号を付与されますと、学会は社会的に認知された団体として活動できるようになります。そして、学会は今後、日本学術会議から次のような協力を受けることができます。

- (1) 広報刊行物、ニュース・メール等の配布・配信
- (2) 適当と認められる会議の共同開催又は後援

続いて、新理事会では絵本学会の現状を踏まえ、できるかぎりのことを果たしていきたいと願っています。すなわち、絵本学会は創設当初から絵本の研究という目的があり、一方で絵本をさまざまな観点から味わい、楽しむこと、そして同時に絵本作家や画家の方々に支援していく等、複数の目的がありました。25年目を迎えようとしている現在、ここで全体を見直して、研究の深化や発展を考慮しつつ、一方で研究活動と絵本に関心のある方々向けの活動などを、どう両立させていくのか、真剣に問わねばならないと考えています。その課題と解決に向けて、会員の皆さまと一緒に運営していきたいと願っています。

最後に、コロナ禍のなかで感染拡大防止に細心の注意を払い、自粛して活動していくつもりです。一方で、オンライン会議やリモートで出来る活動は実施していきたいと願っています。さらにコロナが終息しても、このコロナ禍で学んだ経験は活かしていきたいと願っています。あらためて、会員の皆さまに学会活動にご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第23回・第24回合同絵本学会大会 (5月30日) 開催報告

第24回絵本学会大会実行委員会

第24回絵本学会大会は、熊本県阿蘇郡高森町で予定していた第23回絵本学会大会が、新型コロナウイルス感染症拡大のために開催中止となったことを受け、第23回・第24回合同により、「東日本大震災から10年、コロナ禍での絵本表現を見つめる」をテーマとして、刈谷市総合文化センター（愛知県）で開催する予定をしていました。しかし、5月7日の閣議決定により、会場となる刈谷市を含む愛知県に対して、5月12日から31日まで緊急事態宣言が発出されることになり、急遽、Zoomを使ったオンライン開催に切り替えました。オンライン開催により、作品発表を取り止めた方がいらしたことや、「安野光雅 旅の終わりに」のラウンドテーブルが中止となったことは、残念でなりません。いつか、別の形で実現できることを願っています。

大学の授業や展覧会の打合せでは、オンラインの経験はありましたが、自分がホストを務めることは人生初でした。まったく不慣れなことばかりでしたが、慌ててZoomミーティングとウェビナーの契約を行いました。学芸員として日頃からスケジュールを立て、段取りをつけて、業務をしている経験が生きたのか、通常開館となった「いきものはわたしのかがみ ミロコマチコ」を開催しながら、5月7日以後、日々開催準備を整え、以下のとおり進めていきました。

5月8日＝学会ホームページでオンライン開催を告知→5月16日＝参加要項を決定、案内チラシ入稿→5月18日＝オンライン大会案内チラシ納品、総会資料とともに会員へ発送、同日、学会ホームページでオンライン開催第2報を告知→5月25日＝電子申請による参加締切→5月29日＝参加者へURLをメール→5月30日＝大会開催→6月13日＝ラウンドテーブル再配信(当初参加者のみ)

タイトなスケジュールでしたが、総数637名の参加申し込み(会員168名、一般469名)がありました。研究発表は、A室143名、B室149名、C室54名。作品発表は188名。ラウンドテーブルは581名、総会は79名、表彰式は91名の申込みがありました。当日は、ウェビナーを使ったラウンドテーブルになかなか入室できないなどのアクシデントが多発しましたが、A室132名、B室105名、C室48名。作品発表は122名。ラウンドテーブルは388名、表彰式・総会は78名の方々にご参加いただきました。

オンライン開催に切り替えたことで、急遽、実行委員をお願いした皆さまには、最後の最後まで力強くアシストしていただき、心から感謝しています。1秒たりとも油断できない手に汗を握りっぱなしの大会運営をご一緒できて、大変幸いでした。会員の皆様には、初のオンライン開催でしたので、多々ご迷惑をおかけ

したと思います。コロナ禍にあっても、作家の表現活動や皆様の研究活動も止まることはありません。そうした成果を発表する場である大会を無事に終えることができ、今は安堵しています。今回のオンライン開催の経験が次回の大会に生かされることを願ってやみません。

(文責：松本育子)

—第23回・第24回合同絵本学会大会実行委員会(敬称略)—
松本育子(刈谷市美術館)、梅本洋子(刈谷市美術館)
今田由香(京都女子大学)、甲斐聖子(日本女子大学)
土居安子(大阪国際児童文学振興財団)、
広松由希子(絵本研究家)、山本美希(筑波大学)

研究発表

A 座長：藤本朝巳、生田美秋

①19世紀後半から20世紀初頭のフランスにおける絵本と印刷・製本技術—モーリス・プテ・ド・モンヴェルの絵本作品をとおして

大澤瑞綺（武蔵大学大学院人文科学研究科）

②Sophisticated picture booksの新しい定義と分類をすること
Michelle Kanaan（日本大学大学院）

③わが国の「絵本」研究の確立に向けて一立ち位置と視点提示の必要性—

永田桂子（京都女子大学大学院非常勤講師）

④林明子の絵本表現の一考察～2種の『おふろだいすき』の比較研究

関純奈（絵本学会会員）

①『ジャンヌダルク』などの作品で知られるフランス絵本を代表する画家、モンヴェル。彼の絵本は、子どもを意識して作られたにもかかわらず、大人をも魅了する端正な線とシックな色調の芸術性の高い作品を生み出した。その背景には、リトグラフの発明、カラー印刷と製本技術のめざましい発展があったことを明らかにした。

②絵本は、国際的に通用する分類がないとし、ショーン・タンの『アライバル』を例に、現代的な問題をテーマとするこの絵本を位置付ける新しい分類「Sophisticated picture books」を定義する必要があると主張した。会員から、絵本の例示を増やすことにより、新たな分類と定義の説得力が高まるという意見が出された。

③わが国の絵本研究の歩みを、竹内薫兵の「子供向の繪本」から、絵本学会発足にあたって初代会長吉田新一が紹介したバーバラ・ベーダーの絵本の定義まで、文献資料の具体的な検討を行い、今後の絵本研究には、研究者が自らの絵本観を明確にすることが求められると主張した。絵本学確立のために有意義な問題提起であった。

④林明子の『おふろだいすき』（林版）には、種田有子が絵を担当した版が存在した。発表は、2作品の比較分析を行うことによって、林版の判型や色彩表現の変化のほか、場面割の変更、絵で語られる情報量の増加、ファンタジーの演出の強化、物語世界のイメージの深化が図られたこと、編集者の存在の重要性を明らかにした。

（文責：生田美秋）

B 座長：佐々木由美子、長野麻子

研究発表Bはいずれも絵本が保育・教育面にもたらす新たな期待と役割の大きさをうかがえる内容で、現場調査と理解に基づく有意義な研究であった。

杉本孝美氏と川野圭子氏の「保育活動における体験を表現へ—絵本で感性と思考力を育てる—」は幼稚園内のピオトープ作りを中心に、園児たちが自然体験をかるた、劇、絵本などに表現し、自然の理解を深めていく様子を紹介し、それらの表現活動に自然絵本の読み聞かせが役立っていることを事例とともに示した。質疑で上がった英語での読み聞かせについては、園児の自然理解や表現活動との関連性からさらなる考察がなされたい。

松本由美氏、長澤麻理氏、若林みずほ氏の「小学校英語教育に用いる主体的・対話的で深い学びの視点で選ぶ英語絵本の選定と考察」は小学校外国語活動における英語絵本の導入をめぐる、新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」に沿って、優れた英語絵本の浸透を図るため、独自の選定プロセスを示した。その選定基準は外国語教育ゆえに絵本の言語表現に重点を置いているが、異文化理解も考慮した将来的展望の見える内容であった。絵本の具体例を的確に示すことで、選定基準がより明白に伝わるのではないかと。

玉井智子氏の「小学校特別支援学級での読み聞かせがもたらすもの 実践報告」は特別支援学級における難聴児クラスへの読み聞かせを3年以上にわたり実践調査した成果と課題を報告した。手話を交えた読み聞かせの継続的活動が児童と教員、読み聞かせ実践者、保護者の間に良循環を作り出すことが成果として示された一方で、絵本や童話を手話に訳す際に伴う困難や特別支援学級の教員の窮状などが課題として挙げられた。これらのことは絵本と教育に関わる全体的な問題意識として共有されていくことが望ましいであろう。

（文責：長野麻子）

C 座長：澤田精一、甲木善久

尹惠貞「絵本『さびしがりのやのトッケビ』の構造分析」

アラン・ダンダス、関敬吾の学説によりながら、従来説かかれている民話の構造とは違う構造を、この絵本が持っていることを指摘。なお日本語訳は、『さびしがりのやのトッケビ』（ハン・ビョンホ作・絵、藤本朝巳訳、平凡社）。

丸尾美保「ロシアにおける「ゆきむすめ」イメージの変遷を探る」

「ゆきむすめ」は、当初は素朴なイメージだったが、次第に物語として作りあげられ、オペラにもなり、新年を迎えるキャラクターにいたったのは、絵本研究を越えて「ゆきむすめ」という民衆のイメージの変遷史ともとれる研究。

劉暢「中国の美術大学における絵本制作の実例」

北京にある中央美術学院での絵本制作に関わる理念、カリキュラムを詳説。実際に絵本を作り、絵本作家として自立できる講座は独特なものがある。これは同時に、中国でのオリジナルな絵本の需要が増えてきたとも関連していた。

(文責：澤田精一)

作品発表 座長：澤田精一

宮本淳子・田村敏広『あ』

「あ」は音だけでは「あ」なのだが、それが発語される状況で意味が変わっていくというテーマを扱った絵本。実際の状況を描かなければならないので、その状況の適切な選別、そしてそれなりの描写が必要。そこがもう一つの課題と思われた。

手良村昭子『雨の日のうた』

雨が降っている一日を詩的なイメージで描いた。だが風景はモノクロ調なのに、主人公の女の子は黄色い傘と濃い赤の長靴。しかしワンピースは、ここでもモノクロ調。全体にもうすこし絵本としての表現が欲しい。最後に、これは縦開きの絵本だったという発言を聞き、絵本が本来もっている冊子、そしてページをめくるという機能がここでは失われていることが、ネットでの作品発表の問題と痛感した。

宇恵明日美『ねぐせなの』

絵本だが、絵はコミック調。それを絵本の絵としてどうかと思う人もいるだろうけれど、ここではこの画風がっている。寝癖でのトラブルが続くのだが、寝癖であればシャンプーをして、ヘアドライヤーを使うことで直す。寝癖ではなくて、癖毛ではないか。絵本としての勘所は押さえてはいるものの、もう一步、完成へ向けての努力を希望。

(総評)

絵本は研究対象であるのにも関わらず、絵本学会では絵本の実作も発表できるというのは、絵本を実際に作ってみて絵本の理解を深めるという狙いがあるからです。発表される絵本は出版には

及びません。そこで批評を加えるとなると、見過ごしている箇所、もう少し詰めるべき箇所等々、どうしても欠点を指摘することになります。これは、これが欠点ですよというだけでなく、この問題をクリアーされて、よりいっそう完成形にもって行って欲しいからです。そこに絵本表現への問いがひそんでいるのです。本来なら原画を見ての批評になるわけですが、今回は1度コピーしたものをさらにネットで送るということになり、絵本が本来もっている“モノとしての絵本”がここでは消えてしまいました。コロナ禍のもとでのZoomによる作品発表は、多くの課題を残しました。

(文責：澤田精一)

ラウンドテーブル

「3.11後の絵本表現」

話題提供：長谷川 集平（絵本作家・ミュージシャン）

荒井 良二（イラストレーター・絵本作家）

コーディネーター：広松 由希子（絵本研究家）

14：20～16：30（14：15～16：15の予定を変更しました）



2011年以降、特に注目すべき作品を発表し続けていたふたりの作家をお招きし、東日本大震災以降の絵本表現についてお話をうかがい、語り合うことで、絵本と社会、そして、今という時代について見つめ直す機会となりました。内容の詳細は、大会報告書をご覧ください。

(文責：松本育子)

*大会報告書は現在作成中です。次回のNEWSといっしょにお届けします。

第24回絵本学会定期総会議事録 オンライン総会（参加者71名）

1. 開会の辞

2. 議長・書記の選出

議長および書記が選出された。

議長：甲木喜久

書記：佐々木由美子

3. 会長挨拶

澤田精一会長より挨拶があった。

4. 役員の交代について

役員の交代について資料に基づき報告があり、承認された。

5. 新会長挨拶

藤本朝巳新会長より挨拶があった。

6. 事務局の外部委託について

藤本新会長より、事務局の業務の一部を外部委託せざるを得ない各大学の現状や、外部委託の内容、金額、また、3社から相見積りを取り、1社（毎日学術フォーラム）にしぼった経緯が報告された。審議の結果、事務局業務委託が承認された。

7. 2020年度活動報告

松本事務局長より、資料に基づき2020年度の活動報告がなされた。

8. 2020年度決算・会計監査報告

松本事務局長より、2020年度の決算・会計報告がなされた。また千田篤監事・香曾我部秀幸監事による厳正な監査の結果、適正な会計処理がなされていると認められた旨が報告され、2020年度決算報告が承認された。

9. 2021年度活動計画について

松本事務局長より、2021年度の活動計画案が報告され、承認された。

10. 2021年度予算案について

松本事務局長より、2021年度の予算案について、収入が477万、支出予算が518万円の予定であり、赤字予算になっていることが報告された。継続して経費の削減をしながらの事業を進めていく必要があることが説明された。

藤本新会長より、外部委託の予算として、これまでの事務局人件費40万円および旅費・交通費支出50万円から40万円を外部

委託にあて、計80万円を外部委託予算とすることが説明された。旅費・交通費はこれまでかなりの経費がかかっていたが、今後オンライン会議を利用することで、旅費・交通費を抑制し、外部委託を実現していく旨が説明された。審議の結果、2021年度の差し替え後の新予算案が承認された。

11. 日本学術会議協力学術研究団体への登録申請

藤本新会長より、学術研究団体の登録条件が、会員100名以上、会員の半数以上が研究者であること、役員の半数が研究者であること等の説明がされた。

5月28日現在、会員513名、研究者252名、研究者に準じる13名の計265名、研究者率51.7%で登録のための条件は一応満たしている。しかし、203名の会員が未回答であるため、今後、未回答者に確認を進め、確実な数字を出して申請をしたい旨の報告があった。

12. 次年度絵本学会大会について

藤本新会長より、次年度の絵本学会大会についての進捗状況が報告された。

2022年6月初旬から中旬にオンライン開催を予定していること。また、開催地、開催場所、開催責任者は未定であることが報告された。今後開催される第1回の新理事会で審議し、決定次第、ホームページや絵本学会NEWSで告知する旨が報告された。

13. 質疑応答

質問：決算報告が150万円の黒字になっているのは、経費削減もあるが会費の請求をきっちりしていることが要因だと思われる。外部委託した場合、未払い者への会費請求はどのようになるのか。

回答：外部委託の業務内容には、未払いの会員に対する会費の督促も含まれている。また、外部へ丸投げではなく、本部という形で、会長、会長代理、事務局長が協力し、丁寧な対応をしていく予定である。

14. 閉会の辞

2020年度活動報告

◎企画委員会の活動

- ・2020年度絵本フォーラム「和田誠 A面B面 土井章史氏（トムズボックス）・吉田宏子氏（ハチミツボックス）のオンライン開催

日 時：2021年2月27日（土）19：00～20：30

- ・2019年度絵本フォーラム「『ぼくのたび』ができるまで－絵本作家みやこしあきこ・絵本編集者沖本敦子」開催の記録冊子作成

◎紀要編集委員会の活動

- ・絵本学会研究紀要『絵本学』第23号の刊行
- ・2020年度絵本研究参考文献目録（2020年1月～12月発行分）の作成
- ・2020年度絵本原画展・絵本画家展リスト（2020年1月～12月開催分）の作成

◎機関誌編集委員会の活動

- ・機関誌『絵本BOOK END 2020』の刊行

◎研究委員会の活動

- ・絵本セミナーの開催
2021年3月14日（日） 大阪府立中央図書館 多目的室
テーマ：「スズキコージさんたちと語る昔話絵本の魅力：『ジョージアの昔話 チンチラカと大男』を中心に」
参加者：43名（内会員11名）
- ・絵本研究助成（3件、各5万円）
- ①「フランスの絵本史における、「現代絵本（Album contemporain）」の位置付け－先駆的〈作者-出版者〉クリスティアン・ブリュエルの初期作品を中心に」
申請者：伊藤敬佑
- ②「前衛芸術家が手掛けた絵本の仕事－1960年代～1980年代」
申請者：児玉茜
- ③「日本と韓国の絵本において、人間社会の「敵」はどのように描かれているのか－「鬼」と「トッケビ」を中心に」
申請者：尹恵貞

◎広報委員会の活動

- ・『絵本学会NEWS』の発行
67号(2020年7月31日)、68号(2020年11月30日)、
69号(2021年3月30日)
- ・ホームページの管理、運営

◎日本絵本研究賞運営委員会の活動

- ・第4回日本絵本研究賞の運営

◎役員改選選挙

2020年12月19日付で会員に告知、2月5日必着で締め切り、無投票。

◎「フォーラム・子どもたちの未来のために」の活動報告 （絵本学会は構成7団体の一つ）

第1回オンライン学習会

- ・日本学術会議問題がもたらす危険性とは？

講 師：山田健太（専修大学教授）

日 時：2020年12月13日（日）14:00～15:30

会 場：Zoom によるオンラインで開催

参 加 費：無料

第2回オンライン学習会

- ・コロナ禍での出版状況と子どもの本

講 師：星野渉（文化通信社専務取締役）

日 時：2020年3月6日（土）14:00～15:30

会 場：Zoom によるオンラインで開催

参 加 費：無料

◎他学会等との連携

日本児童文学学会、日本イギリス児童文学学会、日本マンガ学会等との連携推進

◎入退会

2020年度新入会者：32名 退会者：22名と賛助1件
（2021年5月5日段階）

2021年度活動計画について

- ◎第23回・第24回合同絵本学会大会のオンライン開催
2021年5月30日(日) テーマ：東日本大震災から10年、
コロナ禍での絵本表現を見つめる
- ◎企画委員会の活動
 - ・絵本フォーラム等の開催
- ◎紀要編集委員会の活動
 - ・絵本学会研究紀要『絵本学』第24号の刊行
 - ・2021年度絵本研究参考文献目録（2021年1月～12月
発行分）の作成
 - ・2021年度絵本原画展・絵本画家展リスト（2021年1月
～12月開催分）の作成
- ◎機関誌編集委員会の活動
 - ・機関誌『絵本BOOK END 2021』の刊行
 - ・バックナンバーの販売促進
- ◎研究委員会の活動
 - ・研究会の開催
 - ・絵本研究助成
- ◎広報委員会の活動
 - ・『絵本学会NEWS』の発行 年3回の予定
 - ・ホームページの管理、運営
- ◎日本絵本研究賞運営委員会の活動
 - ・第5回日本絵本研究賞の運営
- ◎「フォーラム・子どもたちの未来のために」の活動（絵本
学会は構成7団体の一つ）
- ◎日本学術会議協力学術研究団体への絵本学会の登録申請
- ◎他学会等との連携
- ◎その他

新役員一覧

- 会 長：藤本朝巳
- 会長代理：丸尾美保
- 事務局長：佐々木由美子
- 理 事：甲木善久（機関誌編集委員長）
佐々木由美子
鈴木穂波（研究委員長）
長野麻子（紀要編集委員長）
馬見塚昭久（広報委員長）
丸尾美保
水島尚喜（日本絵本研究賞運営委員長）
宮崎詞美
山本美希（企画委員長）
- 監 事：川勝泰介
杉浦篤子



イラスト：井之口真央

絵本学会 2020年度決算報告書

2020年5月1日～2021年4月16日

単位:円

科目	予算額	決算額	増減(予-決)	
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①受取会費収入	4,200,000	4,190,000	10,000	
賛助会員	140,000	140,000	0	20,000×7口分(現在7団体)
正会員	4,000,000	4,014,000	-14,000	8,000×434名分(現在502名)
準会員	60,000	36,000	24,000	準会員a 4名、準会員b 7名分
②事業収入	420,000	239,940	180,060	
研究活動事業収入	20,000	36,000	-16,000	
フォーラム収入	20,000	0	20,000	
研究会収入	0	36,000	-36,000	研究会参加費収入
出版事業収入	400,000	203,940	196,060	
③雑収入	150,100	148,328	1,772	
受取利息収入	100	3	97	
入金収入	100,000	64,000	36,000	入会金2,000×32名
雑収入	50,000	84,325	-34,325	出版物在庫販売等
事業活動収入合計	4,770,100	4,578,268	191,832	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	2,480,000	1,560,952	919,048	
人件費支出	400,000	400,000	0	
事務局報酬支出	400,000	400,000	0	事務局賃金等
事業費支出	2,080,000	1,160,952	919,048	
消耗品費支出	50,000	29,737	20,263	事務消耗品費
印刷製本費支出	680,000	450,230	229,770	
絵本学会ニュース	150,000	85,410	64,590	絵本学会NEWS67,68,69号
研究紀要	320,000	269,500	50,500	紀要制作費(23号分)
会員名簿	120,000	95,320	24,680	
その他	90,000	0	90,000	封筒印刷代、払込書印字代
通信運搬費支出	520,000	466,491	53,509	ニュース等発送費・通信費
旅費交通費支出	500,000	0	500,000	理事旅費等(理事会4回/年)
会議費支出	100,000	0	100,000	
広告費支出	140,000	150,090	-10,090	
印刷物制作費支出	0	0	0	
HP更新作業費支出	140,000	150,090	-10,090	
振込手数料	10,000	6,710	3,290	
雑支出	80,000	57,694	22,306	発送作業など
②活動費支出	1,500,000	699,917	800,083	
大会運営補助金支出	400,000	41,153	358,847	実行委員会事務局交通費など
第23回絵本学会大会補助金	400,000	41,153	358,847	
専門委員会活動費支出	950,000	508,764	441,236	
企画委員会	200,000	179,960	20,040	
紀要編集委員会	100,000	40,723	59,277	紀要編集等
機関誌編集委員会	100,000	72,958	27,042	『絵本BOOK END』編集
研究委員会	100,000	116,668	-16,668	研究会参加費収入を除く
広報委員会	100,000	35,100	64,900	『絵本学会NEWS』編集
日本絵本研究賞運営委員会	350,000	63,355	286,645	
研究助成費支出	150,000	150,000	0	
③出版事業支出	1,200,000	1,179,750	20,250	『絵本BOOK END 2020』
編集作業費支出	0	0	0	
制作費支出	1,200,000	1,179,750	20,250	
事業活動支出合計	5,180,000	3,440,619	1,739,381	
事業活動収支差額	-409,900	1,137,649	-1,547,549	

II 投資活動収支の部

1.投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2.投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0

III 財務活動の部

1.財務活動収入			
長期借入金収入	0	0	0
財務活動収入計	0	0	0
2.財務活動支出			
長期借入金返済支出	0	0	0
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0

IV 予備費支出

	200,000	0	200,000
当期収支差額	-609,900	1,137,649	-1,747,549
前期繰越収支差額	2,133,008	2,133,008	0
次期繰越収支差額	1,523,108	3,270,657	-1,747,549

単位：円

■2020年度_財産目録

単位：円

	項目		一般会計	20周年積立金	合計
2020/4/30	手元有高		208,396		208,396
	りそな銀行		0		0
	ゆうちょ銀行		1,203,200		1,203,200
	定期貯金		0	1,500,000	1,500,000
	振替口座		318,718		318,718
	未収金		0		0
	仮払金		400,000		400,000
	細目不明金		2,694		
	計 ①		2,133,008	1,500,000	3,633,008
2021/4/16	1年後の増減	②	1,137,649	0	1,137,649
	結果 ①+②	③	3,270,657	1,500,000	4,770,657
	結果③の内訳				
結果③の内訳	手元有高		246,387		246,387
	りそな銀行		0		0
	ゆうちょ銀行		564,907		564,907
	定期貯金		0	1,500,000	1,500,000
	振替口座		1,772,718		1,772,718
	未収金		286,645		286,645
	仮払金		400,000		400,000
	計 ④		3,270,657	1,500,000	4,770,657

絵本学会 2021年度収支予算(案)

2021年4月1日～2022年3月31日 単位:円

科目	予算額	前年予算額	増減	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①受取会費収入	4,180,000	4,200,000	-20,000	
賛助会員	140,000	140,000	0	20,000×7口(現在7団体)
正会員	4,000,000	4,000,000	0	8,000×500名(現在約500名)
準会員	40,000	60,000	-20,000	準会員約10名
②事業収入	220,000	420,000	-200,000	
研究活動事業収入	20,000	20,000	0	
フォーラム収入	20,000	20,000	0	入場者収入
研究会収入	0	0	0	参加費収入
出版事業収入	200,000	400,000	-200,000	『絵本BOOK END』売上
③雑収入	150,100	150,100	0	
受取利息収入	100	100	0	
入会金収入	100,000	100,000	0	入会金2,000×50名
雑収入	50,000	50,000	0	出版物在庫販売
事業活動収入合計	4,550,100	4,770,100	-220,000	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	2,490,000	2,480,000	10,000	
人件費支出	800,000	400,000	400,000	
事務局報酬支出	0	400,000	-400,000	事務局賃金等
事務局委託費	800,000	0	800,000	毎日学術フォーラムに委託
事業費支出	1,690,000	2,080,000	-390,000	
消耗品費支出	50,000	50,000	0	事務消耗品費
印刷製本費支出	790,000	680,000	110,000	
絵本学会ニュース	150,000	150,000	0	絵本学会NEWS70.71.72号
研究紀要	550,000	320,000	230,000	『絵本学』24号
会員名簿	0	120,000	-120,000	
その他	90,000	90,000	0	封筒印刷代、払込書印字代
通信運搬費支出	520,000	520,000	0	NEWS等発送費・通信費
旅費交通費支出	100,000	500,000	-400,000	理事旅費等(理事会4回/年)
会議費支出	0	100,000	-100,000	
広告費支出	140,000	140,000	0	
印刷物制作費支出	0	0	0	
HP更新作業費支出	140,000	140,000	0	
振込手数料	10,000	10,000	0	
雑支出	80,000	80,000	0	発送作業労賃等
②活動費支出	1,370,000	1,500,000	-130,000	
大会運営補助金支出	400,000	400,000	0	ポスター等制作費を含む
第23・24回 絵本学会大会補助金	400,000	400,000	0	
専門委員会活動費支出	820,000	950,000	-130,000	
企画委員会	170,000	200,000	-30,000	フォーラム等
紀要編集委員会	100,000	100,000	0	紀要編集等
機関誌編集委員会	100,000	100,000	0	『絵本BOOK END』編集
研究委員会	100,000	100,000	0	研究会主催
広報委員会	100,000	100,000	0	『絵本学会NEWS』編集
日本絵本研究賞運営委員会	250,000	350,000	-100,000	日本絵本研究賞
研究助成費支出	150,000	150,000	0	
③出版事業支出	1,200,000	1,200,000	0	『絵本BOOK END 2021』
編集作業費支出	0	0	0	
制作費支出	1,200,000	1,200,000	0	
事業活動支出合計	5,060,000	5,180,000	-120,000	
事業活動収支差額	-509,900	-409,900	-100,000	

II 投資活動収支の部

1.投資活動収入	0	0	
	0	0	
投資活動収入計	0	0	
2.投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III 財務活動の部			
1.財務活動収入			
長期借入金収入	0	0	0
財務活動収入計	0	0	0
2.財務活動支出			
長期借入金返済支出	0	0	0
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出	200,000	200,000	0
当期収支差額	-709,900	-609,900	-100,000
前期繰越収支差額	3,270,657	2,133,008	1,137,649
次期繰越収支差額	2,560,757	1,523,108	1,037,649



イラスト：井之口真央

第4回日本絵本研究賞について

●第4回日本絵本研究賞選考委員会を終えて

日本絵本研究賞は第4回より以下のような変更を行い、新たにスタートした。①新たに図書を対象とする特別賞を設けた。②絵本学会の単独の主催とした。③一次選考は毎年行い、最終選考は3年に一度開催することとした。

作者が絵本学会会員であるか否か、論文の文字数などの制限をなくし、対象期間内に発表された中から最も優れた論文、図書を選び、顕彰することにより、絵本と絵本研究の発展につなげるのが改定のねらいであった。

日本絵本研究賞には7編の論文(自薦2、他薦5)、特別賞には4図書(自薦1、他薦3)の推薦があり、日本絵本研究賞運営委員会の委員5名による第一次選考の結果、最終選考には日本絵本研究賞(奨励賞を含む)の対象に論文5編、特別賞の対象に図書2編が推薦された。

選考基準は第一次選考、最終選考共通で、①絵本研究に新たな知見をもたらす意義があること。②論文の構成、論証の手法が適切で、得られた結果の解釈が妥当であること。③研究が独創的で将来性があることとした。

推薦された論文は比較的若い世代の意欲的な論考が多く、その将来性と発展性には期待ができる。

奨励賞の3編は着眼点のよさ、将来性は評価できるものの、絵本用語の使い方や仮説の設定と絵本のフィールド(創作と読み合いの現場)での検証などの基本的な手続きの不足が指摘された。

特別賞の図書は細部までよく目配りがなされ、完成度と説得力の高さが光った。

日本絵本研究賞は表彰で終わりではない。多くの会員が受賞論文、図書を読み、活発な議論を交わすことにより絵本学の発展につなげてほしい。

(報告：日本絵本研究賞運営委員会委員長 生田美秋)

●第4回日本絵本研究賞選考委員会

日時：2021年5月1日(土)午前10時より開催

方法：事前審査をふまえてZoom会議で行った。

●選考委員(○は選考委員長)

○松本 猛(ちひろ美術館常任顧問、横浜美術大学客員教授、絵本・美術・創作)

・川端 誠(絵本作家)

・永田桂子(京都女子大学大学院非常勤講師、絵本・児童文化学)

・水島尚喜(聖心女子大学教授、造形美術教育)

・生田美秋(日本絵本研究賞運営委員会委員長、高志の国文学館部長、絵本・児童文化)

●第4回日本絵本研究賞受賞・論文表題

該当作なし

●第4回日本絵本研究賞奨励賞受賞・論文表題

受賞者：山本美希(筑波大学芸術系、絵本学会会員)他薦

論文名：「物語絵本における文字のないページの有効性」

掲載誌：絵本学会研究紀要『絵本学』No.21、2019年3月

受賞者：花家彩子(常葉大学健康プロデュース学部子ども健康学科、絵本学会会員)他薦

論文名：「絵本の言葉と絵のポリフォニー：ピーター・シス『星の使者』について」

掲載誌：常葉大学浜松キャンパス『常葉大学健康プロデュース学部雑誌』No.14巻1号、2020年2月

受賞者：攪上久子(お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻保育・児童学領域、絵本学会会員)他薦

論文名：「日本のさわる絵本開発のプロセス：視覚の障害(バリア)を超える絵本」

掲載誌：お茶の水女子大学子ども学研究会『お茶の水女子大学子ども学研究紀要』No.7号、2019年6月

その他の最終選考・論文表題

尹恵貞(一橋大学言語社会研究科特別研究員、絵本学会会員)他薦

論文名：「韓国現代絵本の誕生『ペクトゥサンイヤギ』の考察を通して」

掲載誌：一橋大学大学院言語社会研究科研究紀要『言語社会』No.14号、2020年3月

代田和輝子(千葉大学)他薦

論文名：「元永定正の『子どもの本』としての絵本における表象：言葉と絵の関係」

掲載誌：千葉大学大学院人文公共学府『千葉大学大学院人文公共学府研究プロジェクト報告書』No.349集、2020年2月

●第4回日本絵本研究賞特別賞受賞・図書表題

受賞者：赤羽茂乃 他薦

図書名：『絵本画家 赤羽末吉 スーホの草原にかける虹』

出版社：福音館書店、2020年4月

その他の最終選考・図書表題

正置友子（青山台文庫、絵本学研究所主宰、絵本学会員）他薦

図書名：『メルロ＝ポンティと＜子どもと絵本＞の現象学
一子どもと絵本を読むということ』

出版社：風間書房、2018年10月

◆第4回日本絵本研究賞選考委員会委員講評

選考委員長：松本 猛

選考委員会は各委員の事前評価をもとに、オンラインで開催された。研究賞は評価のばらつきがあったが論議のなかで3点に絞り込まれた。しかし、いずれの論文にも一長一短があり、最終的に3点を奨励賞にすることで意見の一致を見た。

山本美希氏。着眼点はよく構成もしっかりしている。しかし、テキストがあって絵本化する場合と画家が最初から絵本として制作する場合の違いや、編集者の役割、また、時間表現では絵巻の先行事例についても言及してほしい。

花家彩子氏。絵を読み解く力量は優れている。細部を分析してシスの解釈を展開する論旨には説得力がある。ただ、テキスト、コメント、イラストが論争しているという解釈は強引。

攪上久子氏。視覚障碍児のための触る絵本の歴史と意味と課題を明らかにし、ノーマライゼーションの重要性を説く論文としては価値があるが、絵本研究論文としてふさわしいかは疑問が残る。特別賞の赤羽茂乃氏の著書は、研究書ではないが、赤羽末吉研究資料としては必須の文献であり、細やかな調査は秀逸である。

選考委員：川端 誠

皆さん熱心に書いていただいているのは大変感心しましたが、絵本の造りを理解して書いていないのが残念というより間違いです。絵本は「画面」が単位です。それを「ページ」あるいは「面」とありますが今後改めてください。絵本というのは画面の連続が勝負です。画面間の関係性にもっと目を向けてください。原画にはノドがありません。印刷、製本されてノドが生まれ、綴じによって絵本の方向性が決まり、左右ページに絵の時間差が表われます。これを拡大、補強するのが文の役目です。文も書体、大きさ、位置、改行の様子で、絵と融合するのです。文もビジュアルなのです。そこにもっと注目してください。とはいえよく研究してあることはどの論文にも共通していました。絵本は楽しい物です。楽しく研究してください。

選考委員：永田桂子

応募の論文・図書は、それぞれオリジナリティがあり、読み応えがあった。以下、全体講評を支える審査員個人の感想として述べる。

山本氏の論文は、その労力に敬意を払いたい。シスの絵本に舞台劇を観るような解釈を試みた花家氏の論文には、作品の演劇的表現への広がり示唆された。攪上氏の論文は、「さわる絵本」の開発に携わった経験をもとにして説得力があった。いずれも力作ではあるが、書式の整え方や結論の導き方に物足りなさを感じた。結論では問題の整理と今後の方向性を的確に示されるとよい。

赤羽氏の図書は非常に優れた評伝である。参考文献、出典、凡例や年表、注釈、用語の表記なども適正に整えられており、今後の赤羽末吉研究を進展させる資料としても評価した。

選考委員：水島尚喜

学会設立より20年以上を経過し、「絵本学」研究は整理されてきた感がある。一方では、他の学問領域のディスプリンを参照しつつも、自在の柔軟さを身上としている学問分野であったはず。独自の研究アプローチや切り口があって良いのではないかと、との思いを全体を通して持った。

《候補論文》に関しては、どの論文も研究への熱量と深度は素晴らしく、特に奨励賞となった3論文については印象深い。ただし、リサーチクエスチョンがやや不明瞭／拡散している部分が見られた。絵本学を俯瞰した上で、ご自身の研究の位置付けを再確認されると良いのでは。

《候補図書》については、2点ともに必須資料として今後に残るであろう内容である。時代精神や適時性を考慮すると、赤羽図書がやや光って見えた。

選考委員：生田美秋

文字のないページが絵本の表現に有効に作用していることを論証した山本論文、韓国における現代絵本の出発点となった作品は『ペクトゥサンイヤギ』であることを特定した尹論文を絵本学への新たな知見として絵本研究賞に推した。ピーター・シス作品を演劇批評の手法で読み解いた花家論文は、ポリフォニー構造の絵本の読解理論の構築を期待し奨励賞に推した。さわる絵本を世界的な潮流のなかに位置付けて課題を提起した攪上論文は、絵本学の知見に物足りなさを感じ次点とした。

特別賞には、赤羽末吉研究に新たな地平を拓いた赤羽茂乃の労作を推したが、子どもと絵本を読み合う意義を、メルロ＝ポンティの思想を手掛かりに考察した正置の図書にも知的興奮と感動を覚えたことを付記しておきたい。

研究委員会からのお知らせ

◎2021年度絵本研究会開催のお知らせ

研究委員会では、会員の皆様と絵本研究を深めていく機会となるよう「絵本研究会」の開催を予定しています。

2021年度は下記のとおり、第4回日本絵本研究賞特別賞を受賞された赤羽茂乃さんに、受賞作『絵本画家 赤羽末吉 スーホの草原にける虹』（福音館書店、2020年4月）についてご講演いただきます。茂乃さんは義父である赤羽末吉研究の第一人者として、その生涯と作品の魅力を多くの人に伝えようと各地で講演活動をされています。赤羽末吉生誕110年の昨年从今年にかけて各地で赤羽末吉展が開催され、茂乃さんもさらに精力的に活動されている中、今回のご講演を快くお引き受けいただきました。

日本絵本研究賞特別賞受賞時のスピーチで、茂乃さんのお人柄に魅了された方も多いのではないかと思えます。『絵本画家 赤羽末吉 スーホの草原にける虹』について、執筆に向けての過程やご著書への思いなど含めながら、茂乃さん流トークを繰り広げていただけるのではと期待しています。赤羽末吉生誕111年の記念の年の締めくくりに、ぜひご参加ください。

講演会『絵本画家 赤羽末吉 スーホの草原にける虹』を語る

- * 日 時：2021年12月18日(土) 14:00～16:00
 - * 講 師：赤羽茂乃
 - * 開催方法：Zoom（ズーム）を用いたオンライン開催
 - * 定 員：100名（先着順）
 - * 参加費：無料
- （絵本学会会員外の方も参加可能です。参加受付開始日は会員と異なります。）
- * 申し込み受付開始
絵本学会会員：10月1日（金）9:00から
一般参加者：11月1日（月）9:00から
どちらも受付締切は12月1日（水）20:00まで
 - * 申し込み方法：QRコードもしくはURL
<https://forms.gle/rXEjtCUuuVRqhAFw8>からの電子申請
（Googleフォーム）にてお申し込みください。
- 【申し込み先QRコード】



参加者には、12月11日（土）にZoomのURLをお送りする予定です。

- * 問い合わせ先：絵本学会研究委員会
ehongakkai.kenkyu@gmail.com

紀要編集委員会からのお知らせ

◎絵本学会紀要『絵本学』第24号投稿論文募集について

絵本学会紀要『絵本学』第24号への投稿論文を募集します。なお、下記投稿規程の他に執筆要項があります。原稿は、必ず執筆要項に従って作成してください。執筆要項は、絵本学会ウェブサイトからダウンロードすることができます。あるいは、絵本学会事務局にお問い合わせください。

絵本学会研究紀要『絵本学』投稿規程

◎投稿資格：絵本学会会員および準会員 2021年8月31日までに会員資格を有していること。

◎内 容：絵本に関する研究論文、研究ノート、論説、報告で、未発表のもの。

【研究論文】研究の視点や手法、理論展開及び結論に独創性や説得力が高く認められるもの

【研究ノート】研究の基礎データになる資料、あるいは理論構築の可能性が認められるもの

【論 説】学術的な論で、注目すべき研究・作品・作家・展覧会・活動を取り上げての評論など

【報 告】活動紹介や文献紹介など

● 掲載 採択：査読に基づき、編集委員が掲載の採否を決定する。必要に応じて編集委員の外に査読委員を依頼する場合がある。採否判定の過程・理由は開示しない。ただし、投稿者は、結果について説明を求めることができる。この場合、編集委員会は申し出の内容を精査の上、適正範囲内で回答する。

● 執筆 要項：執筆は別に定める執筆要項に従うこと。

● 投稿 締切：2021年9月30日(必着)

● 採択 通知：2021年12月15日までに投稿者へ通知する。

● 刊 行：2021年度内

● 原稿送付先：絵本学会事務局(郵送とする。FAX、電子メールなどによる送付は不可)

<文章量についての注意>

絵本学会紀要『絵本学』へ投稿を希望される方は、執筆要項をよく読んで、原稿を作成して下さい。特に、文章量にはご注意ください。

絵本学会紀要『絵本学』は第1号以来、同じ書式で作成しています。現在の紀要のページ割では、註・引用文献・参考文献を含め、研究論文は8ページ、研究ノートは6ページ、論説と報告は4ページを原則とします。このうち、はじめの左半ページは、表題、執筆者名、専門分野、和文・英文抄録等の記載に使用します。本文は右半ページからはじめます。

紀要編集委員会規定一部改正

第1条（目的）

紀要編集委員会（以下委員会）は、『絵本学』刊行を目的とする。

第2条（業務）

委員会は、前条の目的を達成するために、次のような方針で業務を行う。

1. 絵本に関する研究を行う会員および準会員を中心に、絵本研究の成果を発表する場として『絵本学』を編集し、年1回発行する。
2. 『絵本学』の内容は、原則として論文、研究ノート、論説、報告で、未発表のものによって構成される。
3. 論文、研究ノート、論説、報告には、公募による投稿原稿と依頼による原稿の2種類を設ける。
4. 投稿原稿・依頼原稿は、委員会の査読を経て掲載される。
5. 投稿原稿・依頼原稿は委員会が査読を行うが、必要に応じて委員会の外に査読協力者を依頼することができる。
6. 投稿規程は、別に定める。

第3条（組織）

1. 委員長 1名

- 1) 委員長は、理事の互選によって選任する。
- 2) 委員長の任期は3年とする。

2. 委員 3～5名

- 1) 委員は、委員長が推薦し、理事会の議を経て会長が委嘱する。
- 2) 委員の任期は3年とし、再任は妨げない。但し、連続して再任はしない。
- 3) 委員がやむをえぬ事由により任期満了以前に辞任した場合、補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第4条（職務）

1. 委員長は、事業を統括する。

- 1) 委員長は、委員会を招集し議長となる。
- 2) 委員長は、事業の遂行のため業務の一部を委員以外の者に委嘱することができる。

2. 委員は以下の職務に従事する。

- 1) 『絵本学』編集上必要な編集業務について協議し、同誌発行の円滑な運営を行う。
- 2) 査読結果に基づき、それらの採否、修正指示等の処置を決定する。
- 3) 編集計画に基づき、理事会の承認を経て、刊行するための業務を行う。

第5条（委員会の経費）

1. 委員会を運営するために必要な経費は、専門委員会活動費から支出する。

第6条（改廃）

本規程の改廃は、委員会の議を経て理事会が行う。

附則 本規程は、2021年6月19日から施行する。

第5回日本絵本研究賞・日本絵本研究賞特別賞

絵本についての優れた論文、評論、報告及び著書の推薦を募集します。

【経緯】

1997年に創設された絵本学会は、創立20周年を記念して、絵本研究や評論活動のさらなる活性化を図るため、「日本絵本研究賞」を創設しました。

第3回の日本絵本研究賞選考委員会に於いて、日本絵本研究賞のあり方についての抜本的な見直しが必要であるとの認識をもとに、日本絵本研究賞の開催を一旦中断し、日本絵本研究賞特別委員会及び絵本学会理事会において鋭意見直しの検討を行いました。

その結果、第4回より以下1)～5)の通りに内容を変更しました。さらに第5回からの変更点として6)を加えました。

- 1) 優れた論文・評論・報告を対象とする「日本絵本研究賞」のほかに、新たに著書を対象とする「日本絵本研究賞特別賞」を設ける。
- 2) 絵本学会の単独の主催とする。後援には公益社団法人全国学校図書館協議会他を予定。
- 3) 作品の募集は、賞の選考対象期間内に発表された絵本研究から絵本学会会員による推薦(自薦及び他薦)によって行う。会員による推薦は毎年募集する。
- 4) 一次選考は、会員による推薦(自薦及び他薦)をもとに、日本絵本研究賞運営委員会(日本絵本研究賞特別委員会の名称を変更)が行う。一次選考は毎年開催する。
- 5) 最終選考は、運営委員会の一次選考をもとに、選考委員会によって3年に一度行い、入賞発表及び表彰は絵本学会大会で行う。第4回は例外的に2年分の論文等と著書を対象としたが、第5回目以降は3年分の論文等と著書を対象に3年に一度行う。
- 6) 「日本絵本研究賞」の対象となる優れた論文・評論・報告については、一次選考の結果を学会ニュース等で単年度毎に公表し、「第〇回日本絵本研究賞候補(西暦年)」として顕彰する。

日本絵本研究賞・日本絵本研究賞特別賞は、論文等、著書の作者が絵本学会会員であるか否かや文字数の制限無く、対象期間内に発表されたすべての絵本研究の中から、最も優れた作品を選び、表彰します。絵本学会は、学会員の協力を得ることにより、この賞が日本の絵本研究と絵本学会の発展につながることを確信して、全力で取り組んでいきます。

会員の皆様のたくさんの推薦をお待ちしています。

◎主催 絵本学会

◎後援 公益社団法人全国学校図書館協議会他

◎賞の種類

「日本絵本研究賞」(以下研究賞とする)：絵本研究や評論活動に関するすぐれた論文等に対して与えられます。今後に期待できる意欲的な論文等に対しては日本絵本研究賞奨励賞が与えられます。

「日本絵本研究賞特別賞」(以下特別賞とする)：絵本研究や評論活動に関する特にすぐれた著書に対して与えられます。

◎賞の対象

2020年10月1日～2023年9月30日の期間内に発表された、絵本についての研究論文や評論、報告(実践、調査報告)。

* ブログ、SNS、個人的な趣の強い発表などは除きます。研究賞は、学会・大学・博物館・美術館・文学館等の紀要、展覧会図録などに発表された論文、評論、報告を対象とします。紀要などへの掲載回数や文字数は問いません。特別賞は、上記期間に発表された著書を対象とし、特に優れていると認められる場合に授与します。

尚、対象となる論文等・著書の著者は絵本学会会員でなくてもかまいません。

◎2021年推薦(自薦及び他薦)受付期間

2021年11月1日(月)～11月30日(火) 必着。

対象：2020年10月1日～2021年9月30日の期間に発表された論文、評論、報告及び著書

◎推薦宛先・問い合わせ先

〒150-8938 東京都渋谷区広尾 4-3-1

聖心女子大学現代教養学部教育学科 水島尚喜研究室気付

「日本絵本研究賞運営委員会」受付 宛

e-mail : info@ehongakkai.com

推薦方法等は絵本学会ホームページでも公開します。

◎推薦資格

- ・絵本学会会員 2021年10月1日（金）時点で入会手続きが完了していることとします。
- ・研究賞は絵本に関する論文、評論、報告を、特別賞は絵本に関する著書を推薦できます。

◎推薦方法・推薦規程

- ・推薦に際しては絵本学会ホームページから所定の書式をダウンロードしてください。送付先を明記した封筒には「日本絵本研究賞」と朱書きしてください。
- ・研究賞は、推薦される論文・評論・報告の著者名、タイトル、掲載誌（掲載URL）、出版社（発行者）、出版年月等を明記し、200～300字程度の推薦理由を付け、抜き刷りまたはコピー1部を添えてお送りください。
- ・特別賞の場合は著者名、タイトル、出版社（発行者）、出版年月等を明記し、200字～300字程度の推薦理由を付けてお送りください。自薦の場合は、該当の著書1冊をお送りください。（返却希望の場合は、返送先を明記したレターパック等を同封してください。）
- ・自薦・他薦は問いません。
- ・それぞれについて、お一人で複数の推薦をすることが可能です。
- ・メールによる問い合わせの際には、「日本絵本研究賞」と但し書きをしてください。

◎入賞発表

2024年の絵本学会大会で発表します。次いで『絵本学会NEWS』、機関誌『絵本BOOKEND』、及び全国学校図書館協議会発行の『学校図書館』『学校図書館速報版』に掲載します。

◎表彰

日本絵本研究賞、日本絵本研究賞特別賞の表彰式は2024年開催予定の絵本学会大会において挙行します。

◎賞

日本絵本研究賞 賞状及び賞金（50,000円）
日本絵本研究賞奨励賞 賞状及び賞金（30,000円）
日本絵本研究賞特別賞 賞状及び賞金（50,000円）

◎受賞作品の掲載

受賞作品の要旨を、直近で発行予定の『絵本学会NEWS』、あるいは機関誌『絵本BOOKEND』に掲載します。

◎選考委員

理事会において「第5回日本絵本研究賞・日本絵本研究賞特別賞」の新たな選考委員の選任を行います。決定しだいお知らせします。

絵本学会理事会報告

◎2020年度理事会メール議事録15

日 時：2021年3月20日(土)発信

回 答：澤田精一（会長） 松本育子（事務局長） 生田美秋
今田由香 甲木善久 佐々木由美子 鈴木穂波
長野麻子 藤本朝巳 丸尾美保

◆審議事項

1. 退会者について（2021年3月2日～2021年3月19日）

以下の退会者(敬称略)が承認された。

退会者：大月ちとせ 山畑幸子 石川正一 坂内夏子

◎2020年度絵本学会オンライン理事会 議事録

日 時：2021年5月9日（日）20：00～

出 席：澤田精一（会長） 松本育子（事務局長） 藤本朝巳
佐々木由美子 今田由香 甲木善久 丸尾美保
鈴木穂波 甲斐聖子（事務局補助）

◆報告事項

1. 第23回・第24回合同絵本学会大会のオンライン開催について松本第24回大会実行委員長より、2021年5月12日(水)～5月31日(月)まで愛知県に緊急事態宣言が発出されるため、対面式の大会開催からズームを用いたオンライン開催に切り替える旨の報告があった。

◆審議事項

1. 第24回定期総会資料について

松本事務局長から提出された第24回定期総会資料案が承認された。

2. 新体制における事務局の外部委託について

藤本理事、佐々木理事から外部委託を前提として、新体制の理事会を運営していく理由等が述べられ、外部委託に関する複数の会社からの仕様や見積書についての説明が行われた。

議論の結果、事務局委託の仕様内容を精査し、委託経費を抑えること。預ける委託金額の上限金額を設けること。契約書内容を十分に検討すること。外部委託に切り替える理由、委託仕様内容、見積書等の説明書類を整え、定期総会で審議を受けることが決定した。

◎2020年度絵本学会オンライン新旧合同理事会 議事録

日 時：2021年5月28日（金）19：00～

出 席：澤田精一（旧会長） 松本育子（旧事務局長）
藤本朝巳（新会長） 佐々木由美子（新事務局長）
今田由香 甲木善久 丸尾美保 鈴木穂波
馬見塚昭久 水島尚喜 宮崎詞美 山本美希
甲斐聖子（旧事務局補助）

◆報告事項

1. 第23回・第24回合同絵本学会大会について

松本第24回大会実行委員長より、以下のとおり報告があった。

①2021年5月25日に電子申請を締め切ったが、637名申込があり、内訳は、会員168名、一般469名。研究発表は、A室143名、B室149名、C室54名。作品発表は188名。

ラウンドテーブルは581名、総会は79名、表彰式は91名の申込みがあった。

②大会報告書を作成するため、絵本学会NEWSには簡略して報告することにする。大会報告書は絵本学会NEWSとの同時発送を希望する。

③日本絵本研究賞、日本絵本研究賞特別賞の授賞式を総会前に行うことにした。

④表彰式の司会は松本第24回大会実行委員長が担当し、総会の議長選出前、総会終了時の司会も担当することになった。

⑤ 総会の承認の仕方は、「賛成の方に挙手をお願いする」方法にした。

⑥日本絵本研究賞の表彰式についての次第を確認した。

生田日本絵本研究賞運営委員長の受賞者紹介のあと、受賞者のあいさつを行う。

◆審議事項

1. 退会者について（2021年3月3日～5月28日）

退会者：梶間奈保 金澤和子

2. 各委員会の引き継ぎについて

①企画委員会

②紀要編集委員会

③機関誌編集委員会

④研究委員会

⑤広報委員会

⑥日本絵本研究賞運営委員会

各委員会の引き継ぎについては、前委員長が引き継ぎ書を作成し、書面にて引き継ぎを行い、対面でも行ったことが伝えられた。

事務局移転にあたって

絵本学会事務局長 佐々木由美子

このたび、松本育子事務局長のあとを引き継ぎ、絵本学会の事務局を担当することになりました。ここ昨今の大学を取り巻く状況下、本務校業務だけでも追われる日々でしたので、事務局をお引き受けするなんて正直考えられませんでした。丸尾会長代理からの力強い協力のお申し出がなかったら途方にくれていたと思います。これからの3年間、藤本会長はじめ、理事のみなさまに支えていただきながら、なんとか務めさせていただきたいと思っております。至らない点もあるかと思いますが、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

さて、2021年5月30日の総会で、事務局業務の一部が外部委託されることが承認されました。それにもない絵本学会本部を設置いたしました。藤本会長、丸尾会長代理らと協力しながら、委託先と本部の連携を図りつつ、学会運営が円滑に進むよう努めていきたいと思っております。また、外部委託にあたって、情報共有を徹底する意味でも電子化できる部分は電子化していくことになりました。会員の皆様にもご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、どうぞ、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

以下の書類は学会ホームページからダウンロードできるようになりました。こちらの書式にご記入の上、事務局 (maf-ehongakkai@mynavi.jp) にメール添付でお送りください。

- ① 退会届
- ② 会員情報変更届
- ③ 新入会員入会申込書：ホームページから電子申請できるようになりました。

【絵本学会事務局】

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1

パレスサイドビル9F (株) 毎日学術フォーラム内

電話：03-6267-4550

Mail：maf-ehongakkai@mynavi.jp

HP：http://www.ehongakkai.com

【絵本学会本部】

Mail：office@ehongakkai.com

3. 事務局より

- ・事務局のメールアドレスを5月31日に変更することを依頼。
- ・引き継ぎ書は、藤本理事、丸尾理事、佐々木理事にメールにて送付することとし、事務局の保管箱は藤本理事の職場あてに送付することになった。
- ・現理事会で継続審議となった、新潟青陵大学図書館からの機関リポジトリにての論文公開について、新理事会で審議の上、回答することを依頼。

4. 日本学術会議協力学術研究団体への登録について

藤本理事に進捗状況を確認し、報告があった。

5. その他

特になし。

新入会員の自己紹介コーナー

横田 潤子

はじめまして。2019年度より準会員として入会させていただき、今年度より会員となりました高知県香南市在住の横田潤子と申します。

国家公務員として高等教育機関で図書館業務等に從事しながら3人の子どもの「共働き絵本子育て」し、地元図書館での読み聞かせ活動を約18年続け、現在は学校図書館支援員として小・中学校に勤務しております。

絵本の自由な表現や豊かさ、奥深さに強く魅力を感じて、更に関連する学びを深めたいと思い、2018年度から2020年度まで日本女子大学通信教育課程で児童学を学びなおし、また、2020年度には絵本専門士養成講座第7期生として絵本に関する専門的な学びを得て、このたび絵本専門士として認定されました。

絵本学会で学会員の皆様方との交流や研究等により、絵本に関するより深い知識と最新の情報を学ばせていただき、地域での絵本の普及や読書支援活動を更に広げていきたいと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

編集後記

・今回初めて委員を担当させていただきました。このような広報誌の編集作業は初めてのことで戸惑いましたが、皆様のおかげで何とか形にすることができました。これから委員4名で力を合わせ、魅力的な紙面づくりに努力してまいります。どうぞよろしく願い申し上げます。

(馬見塚昭久)

・今期も広報委員としてNEWSの編集に携わることになりました。コロナ禍のもと、コミュニケーションのあり方に試行錯誤する毎日です。NEWSを通じて絵本学会の魅力や様々な情報をお届けするお手伝いをさせていただきたいと思っております。引き続きどうぞよろしく願いいたします。

(宮崎詞美)

・今号より絵本学会NEWSの編集を担当させていただきます。先生方のお力を借りながら、年3回手元に届くNEWSがみなさまの交流の場であり、ご研究の羅針盤にもなるように努めて参ります。どうぞよろしく願いいたします。

(松本由美)

・新しくNEWSの編集を担当させていただきます。まだまだ不慣れですが、精いっぱい楽しんでやらせていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

(尹惠貞)